

<b>災害環境研究プログラム 環境回復研究プログラム</b>
--------------------------------

<b>委員会の主要意見</b>
-----------------

現状についての評価・質問等
---------------

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民避難による生物・生態系への影響において、年間のモニタリングで生物相変化の実態が明らかにされたことや、帰還後の生活環境の改善や不安の軽減に貢献されたことを評価する。【事後】</li> <li>○社会貢献の大きい研究テーマである。また、今年は多くの論文化を図り、科学的貢献も増加したことも評価できる。【年度】</li> <li>○福島原発事故に由来する放射性物質汚染に対応するために必要な技術開発だけでなく、台風19号の影響も解析するなど緊急性の高い案件への対応も行い、さらには社会・行政への対応も行っている。【年度】</li> </ul> |
|--|

今後への期待など
----------

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境回復と資源循環の融合によるさらなる技術開発に期待する【年度】</li> <li>○第4期全体を通して、期待以上の成果を上げたと評価できる。来期はそれらの技術の社会実装が大きく進展することを期待する。【事後】</li> <li>○汚染廃棄物等の減容化・中間貯蔵技術の開発が進行しているが、実装時に想定される課題の抽出が十分に行われることを期待したい。【事後】</li> <li>○避難困難地域の屋内外や森林-ダム湖-河川-河口等一体とした放射性物質の動態解明、台風による流出特性、さらには山菜、イノシシなど野生食品の安全性の要因解明など、研究成果が地元の不安に応えると同時に、学術的にも成果を上げている。さらなる研究継続を期待したい。【事後】</li> </ul> |
|---|

<b>主要意見に対する国環研の考え方</b>
------------------------

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 今中長期で環境動態やその影響評価に係る取組が目指した目標について、その達成状況を評価いただき誠に有難うございます。年度評価としては、研究全般の進捗とともに、それに基づくアウトカムに関しても評価いただき有難うございます。</li> <li>② 国際機関への貢献や成果発表の進捗について評価いただき誠に有難うございます。ご指摘の技術開発は、避難指示解除区域を中心とした福島地域資源の利活用において重要な課題であると認識しており、ご期待に沿えるよう取り組みを進めていく所存です。</li> <li>③ 次期においては、ご期待に沿えるよう、これまでの取り組みから得られた知見を活用して、避難指示が解除された地域の復興支援に資する技術開発とその実装を中心とした研究を展開する予定です。</li> <li>④ 汚染廃棄物等の減容化・中間貯蔵技術の開発にご期待いただいた点については、専門的かつ中立的な立場からの評価を進めるため、環境放射能除染学会に研究会を立ち上げ、様々な専門家を集めて技術シナリオやマスバランス等の検討と共に、社会的合意形成に係る多面的評価についても検討を進めています。また、研究会での活動については、除染学会HPに公表いたしました。</li> <li>⑤ 次期においては、技術実装等地域の環境復興に直接つながる取り組みをプログラムとして、環境回復に係るモニタリングについては基礎基盤的な取り組みとして、それぞれ引き続き注力していきます。</li> </ul> |
|--|